

第18回宇宙開発利用専門調査会での論点と対応(案)

平成16年 2月24日
総合科学技術会議事務局

第18回宇宙開発利用専門調査会(基礎的・基盤的研究開発)における主な論点とその対応案を表1にまとめる。

表1 主な論点と対応等(その1)

No	主な論点	対応等
1	【宇宙科学・基盤研究共通】 日本の独自性を発揮できる技術、科学研究を進めるための戦略の議論。 <主な意見> ・国の限られた資源を投入するにあたってのプライオリティ付けが必要。 ・研究開発課題の絞りこみが我が国の独自性発揮につながる。 ・国際協力の視点が必要。 ・世界の中での我が国の正確な位置付けの把握が必要。 ・科学的意義だけでなく、社会的、経済的な意義の評価が必要。 ・基盤技術として、ハードだけでなく、信頼性理論のようなソフト面の取組みも必要。 ・大型化だけが、今後の進む方向ではない。	課題のひとつとして、調査会で議論。
2	【基盤研究】 基盤研究の産学官の役割分担の議論。 <主な意見> ・財政が許す限り国として失敗も許容して基盤研究を積極的に推進すべきであるが、民の実用化に当たっては、国内外を問わず良い技術を採用すべき。 ・宇宙実証の機会が少ないというハンディキャップから基盤技術を担う企業の撤退が進んでおり、日本が保持すべき基盤技術、基本製品を見定めた戦略が必要。 ・産業基盤の維持のため、国は宇宙実証機会の確保や、機構部品への支援を実施すべき。 ・省庁間や官学間の連携により無駄を省くことが必要。	課題のひとつとして、調査会で議論。

表1 主な論点と対応等(その2)

No	主な論点	対応等
2 続き	< 主な意見の続き > ・国中心のみの研究開発体制から、大学の活用や、民主体で実施して国が競争的資金等を提供するという、発想の転換が必要。 ・中小企業の匠の技能に基づいた試行錯誤的な取り組みも新たなアプローチとして検討すべき。 ・基盤研究プログラムの設定にあたっては、特定の閉じたグループで決定するのではなく、透明性、公開性を持たせるべき。	課題のひとつとして、調査会で議論。
3	【宇宙科学 基盤研究共通】 我が国の得意分野での画期的な成果などの国民へのアピールが足りない。	コメントとして、今後のとりまとめに反映。
4	【宇宙科学】 宇宙科学は、真理の追究、知的資産の拡充に寄与しており、宇宙開発利用の基本である。欧米でもひとつの大きな柱とされているので、軽視してはならない。また、これまで国産を基本に研究開発を推進しており、産業化の観点においても貢献度は大きい。	コメントとして、今後のとりまとめに反映。
5	【基盤研究】 基盤研究と産業化に関する議論。 < 主な意見 > ・観測センサ技術は日本は進んでいるが、リモートセンシングの商業化がうまくいっていない状況について、原因の定量的な評価が必要。 ・意欲があり、宇宙利用を実施したいという団体を援助する仕組みを作る努力が必要。 ・大学発のベンチャー企業が生まれるような社会を醸成することが必要。 ・大学における取り組みがどのようにビジネスにつながるのかという展望を示すことが必要。	コメントとして、今後のとりまとめに反映。